

地域間の連携を図り 愛ある医療を各地へ届ける

施設数、病床数の多さ、多面的な事業内容で知られる医療法人IMS(イムス)グループ。東日本を中心に、病院、健診施設、介護施設、看護学校ほか、医療にかかわるほとんどの施設を有し、一貫した医療を地域に提供している。目指すのは「愛し愛される医療と介護」。その揺るぎない「IMSスピリット」とグループならではの総合力で地域医療に貢献している。



増築された放射線治療センターG館

東京都板橋区に本部を置く医療法人IMS(イムス)グループは、病院34施設をはじめ、診療所や健診施設、介護施設、老人ホーム、看護学校など、計71の医療介護関連施設を運営している。病床は延べ11,410床。昨年度実績で外来患者数が2,841,077人に上る。

「1956年、父である中村哲夫らが板橋に開設した5床の診療所からスタートしました」と、IMSグループ理事長の中村哲也氏が設立の経緯を語る。

「父の出身は北海道の田舎町です。父が子供のころ、兄弟が大怪我をしたことがありました。近隣の診療所の医療体制が不十分だったため、母親は毎週、札幌の大学病院まで治療に通っていたそうです。その経験から父は、地

域の医療を充実させ、地域で完結させることの必要性を感じたといいます。これが、現在でも当グループの基本姿勢になっています。

地域で完結する医療の実現で 最先端医療を身近に

「地域で医療を展開するうえで必要なのは、まず地域の患者様を愛し、患者様の喜ぶ医療と介護を提供し、そして患者様から愛されること。これが草創期からの我々の理念です」と中村理事長。

5床の診療所からスタートした板橋中央総合病院が、579床を有するIMSグループ基幹病院となった今でも、同グループの運営や活動には一貫して「地域で完結し、愛し愛される」という精神が受け継がれている。このことは、急

性期の地域中核病院の周辺に、健診施設や亜急性期病院、介護施設などを設置していることからもうかがえる。

「患者様の立場になれば、住み慣れた街で治療も介護も受けたいもの。診療圏内に、予防から介護まで行える施設や互いに機能を補完し合える病院をつくることで、患者様は遠方に行かなくてすむのです」。

最新機器を備えた 専門病院が各地に

地域で完結させるためには、その域内の医療の内容が充実している必要がある。総合病院と並んで、それに込めているのが、各地の専門病院だ。

内視鏡下手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入している泌尿器科のある東



「現代は急性期、慢性期を問わず一貫してケアすべき」と語る内科医でもある中村哲也理事長



病院内、ブロック内、グループ内の協調・協力を育み、競争を成長につなげるべく、毎年盛大な運動会を挙げる。4,000~5,000人の職員が各地から集まる



2012年にオープンした「イムス総合サービスセンター」では、誰もが気軽に医療や介護について相談できる。専任スタッフの的確なアドバイスを受けられる

京腎泌尿器センター大和病院(東京都板橋区)がその1つ。「ダ・ヴィンチ」を使った前立腺がん摘出手術は年間約100件で、都内の民間病院としてはトップクラスの件数である。

循環器・心臓疾患に特化しているのがイムス葛飾ハートセンター(東京都葛飾区)。大動脈瘤破裂などの緊急患者を、365日24時間体制で受け入れ、手術に対応している。また、数少ない循環器の高度専門病院の1つでもあるため、東京都の緊急大動脈重点病院にも登録されている。

脳血管障害に重点を置く横浜新都市脳神経外科病院(横浜市)は、脳外科専門医のみによる24時間救急体制で、脳卒中全般や脳・脊髄腫瘍、頭部外傷などに幅広く対応。リハビリ病棟も併設し、超急性期から回復・維持期までを一貫してフォローする。

また、板橋中央総合病院に放射線治療センターG館を増築。脳腫瘍治療で注視される「サイバーナイフ」と放射線治療装置「リニアック」という、がん放射線治療の最新鋭高性能機器2台を導入。10月より放射線治療を開始する予定であり、患者にとって最先端医療を身近に受けられる機会が増えることになる。

IMSグループが誇るのは、急性期病院だけではない。新戸塚病院(横浜市)は、急性期を過ぎた患者を広く受け入れている333床の回復期病院だ。院長を筆頭にスタッフのヒューマニティーあふれる医療・ケアが信頼を集めている。

地域ごとの力を集結し 充実した医療を提供

医療の地域完結を目指す一方で、専門性と実績に基づいた知識・技術は地域の枠を超え共有される。

「最も重視しているのが人材育成。セクションごとに集まり、『IMS看護学会』『IMS医学検査学会』『臨床研修発表会』など、学会や研修会を開催しています(中村理事長)。

IMSグループでは、医療事務職の教育プログラムも作成しグループ全体で共有している。これらの研修・教育により、グループで働く職員の意思統一を図ることができるうえ、施設間の連携が強まり協調・協力体制が整う。各ブロックからデータ、経験、技術を集結させ、学会や勉強会などで、技術と知識を互いに高め合うことで、より充実した地域医療を提供している。

さらに、診療相談窓口、二次健診窓口、医療・介護の相談を受け付けるインフォメーションセンターとして2012年春に立ち上げた「イムス総合サービスセンター」は、専門病院をいくつも有するからこそできた機関だ。「この治療はどこで受けられるのか」「急性期病院を出された後の行き場がない」など、医療介護に関する相談を幅広く受け付け、情報の提供や医療機関の紹介を行う。受診歴のあるなしにかかわらず誰でも利用でき、相談は無料。英語、中国語、韓国語などでの相談にも応じ、海外から受診を希望する人の医療ツーリズムも提供している。

今後も、2014年秋の特別養護老人ホームと介護老人保健施設などを複合させた大規模高齢者施設「クローバーのさと カウピリ板橋」のオープンなど、社会のニーズに応えていく。

医療法人 IMS(イムス)グループ

【所在地】 東京都板橋区(本部事務局)
【設立】 1956年(当時は板橋中央病院)
【関連施設】 病院、介護老人保健施設、クリニック、人間ドック、健診施設、有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、ナースিংホーム、看護学校など国内、ハワイに71施設